

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	17222.59	402.86
N Y ダウ	17,356.87	288.00
D A X (独)	9,544.43	-19.46
FTSE100 (英)	6,336.48	4.65
CAC40 (仏)	4,111.91	18.71

<外国為替>※

ドル円	118.71 円	0.06 円
ユーロドル	1.2341 ドル	0.00 ドル

<長期金利>※

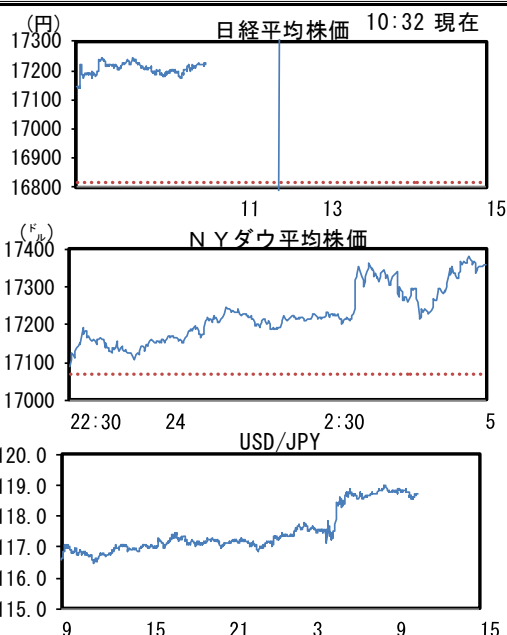
日本	0.364 %	0.001 %
米国	2.136 %	0.077 %
英国	1.771 %	-0.004 %
ドイツ	0.592 %	-0.004 %
フランス	0.873 %	-0.004 %
イタリア	1.962 %	-0.050 %
スペイン	1.771 %	-0.029 %

<商品>

N Y 原油	56.47 ドル	0.54 ドル
N Y 金	1194.30 ドル	0.40 ドル

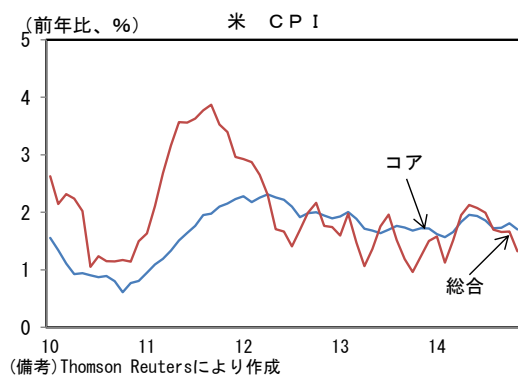
※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



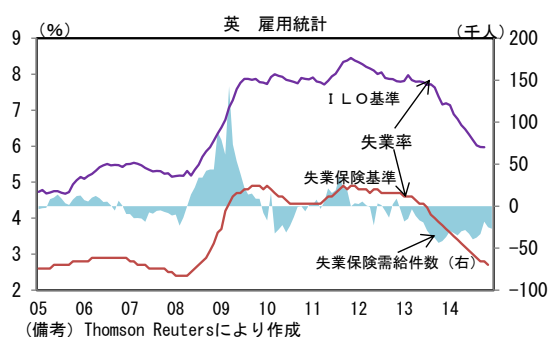
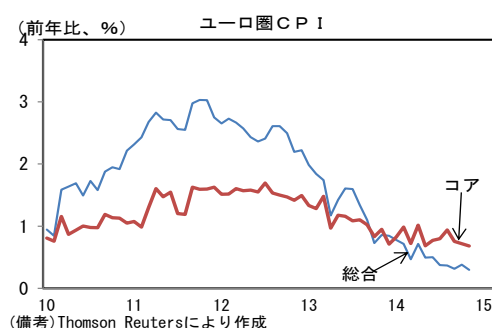
【海外株式市場・経済指標他】 ～C P I : 予想以上に減速～

- ・米国株式市場は反発。FOMCの見解が警戒していたほどタカ派的な内容ではなく、それを好感。大商いとなった（上昇幅は今年最大、出来高は3番目）。FOMC関連は後述。
- ・11月米C P Iは前月比▲0.3%、前年比+1.3%と予想以上に減速。エネルギー価格が前月比▲3.8%と5ヶ月連続で下落、全体を下押し。交通費(▲2.0%)も下落した。コアC P Iは前月比+0.1%、前年比+1.7%となり、こちらも予想を下振れた。クリスマス商戦で値下げ競争が激化したとみられ、衣料品(▲1.1%)が幅減速。住居費は+0.3%と過去半年間のレンジで推移。コア物価は労働市場の回復を反映して加速が見込まれるが、目先のにはエネルギー価格下落の影響を間接的に受けるとみられるため、リスクは下向きだ。



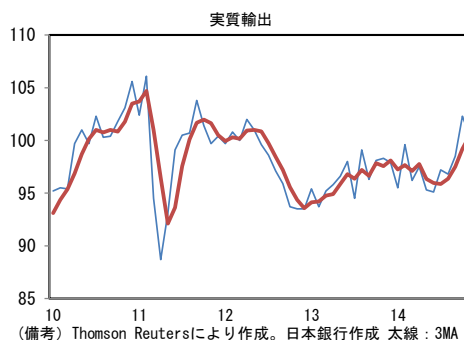
【外国為替相場・債券市場】～英国：実質賃金はプラス圏に～

- ・前日のG10通貨はJPYが全面安。16日に一時115半ばを記録したUSD/JPYは、17日アジア時間に下落幅を縮小するとその後は米国時間入り後の米金利上昇に沿って上昇を開始。FOMC通過後に米金利が上昇幅を拡大するとそれに追随した。G10通貨ではCHF、EURがJPYに続く弱さとなり、EUR/USDは1.23台まで下落した。
- ・米10年金利は前日比+7.7bpの2.136%。FOMC声明文及び議長会見はタカ・ハト入り混じる内容だったが、株式市場がラリーするなど投資家のリスク選好度が強まるなか米債は売りで反応。原油価格下落も一服し、露RUBは当局の対応（為替介入・ロシア中銀による銀行支援策）が奏功して急速に買い戻された。欧州債市場はコア国小動き、GIIPS堅調。要人発言はクーレECB専務理事がソブリンQEをこれまでより強めのトーンで示唆。「国債市場が基本的な選択肢」、「追加措置に関して広範な合意が醸成されている」との発言を受けてEUR/USD下落、GIIPS債ラリーで反応。経済指標は11月ユーロ圏CPI（確報）が前年比+0.3%と速報値及び市場予想に一致。コアCPIも速報値から不変。英国では10月ILO基準失業率（3ヶ月）が6.0%と前月から不変も、10月単月では5.9%に低下。11月失業保険基準失業率も2.7%と0.1%pt低下しており、失業率の低下基調を確認。平均賃金は前年比+1.4%と前月から0.4%ptも改善。除く賞与ベースでも+1.6%と前月から0.4%pt加速してボトムアウトを確認。実質賃金はプラス圏に浮上した（10月CPIは前年比+1.0%）。



【国内株式市場・経済指標他】～輸出：悲観は不要～

- ・日本株は米株高、USD/JPY上昇を受けて高寄り後、上昇幅拡大。
- ・昨日発表の貿易統計によると実質輸出は前月比▲1.8%となった。3ヶ月ぶりに減少したものの、前月（+3.9%）の急増と均してみれば増加基調にあり悲観は不要。10-11月平均は7-9月期を年率+17.0%上回っており、底打ち感が鮮明になっている。先行きも海外経済の持ち直しを背景に緩やかな増加基調を維持しよう。



【注目点】～見事にぼやかした～

- ・昨日のFOMCは市場参加者の期待を絶妙にコントロール。「（利上げまでの）相当な期間」を削除する一方、金融政策の正常化に向けた道のりについて「辛抱強くなれる（待てる）」と新たな文言を挿入。声明文の後半では「（ゼロ金利政策を）相当な期間維持することが適切になるだろうとした前回の声明と合致する（consistent with its previous statement）とみている」として声明文の表現変更後も実質的な意味合いに変化がないことを強調し、政策変更は飽くまで「データ次第」という従来のスタンスを貫いた。更に議長会見では「今後数回のFOMCで利上げの決定はない」とも発言、意図せざる利上げ観測の封じ込めに終始。意図的にハト派なのかタカ派なのか判断できない内容にしたのだろう。それぞれの市場参加者の希望的観測に基づいて「イイトコドリ」ができるよう見事にぼやかした格好だ。